

今月のエキゾチック症例(第4回 2023年6月)

きっと初耳な診断名ーハリネズミの子宮腫瘍ー

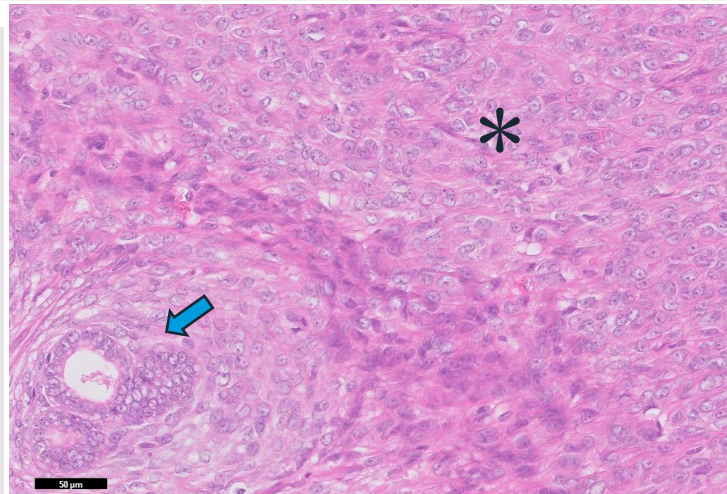
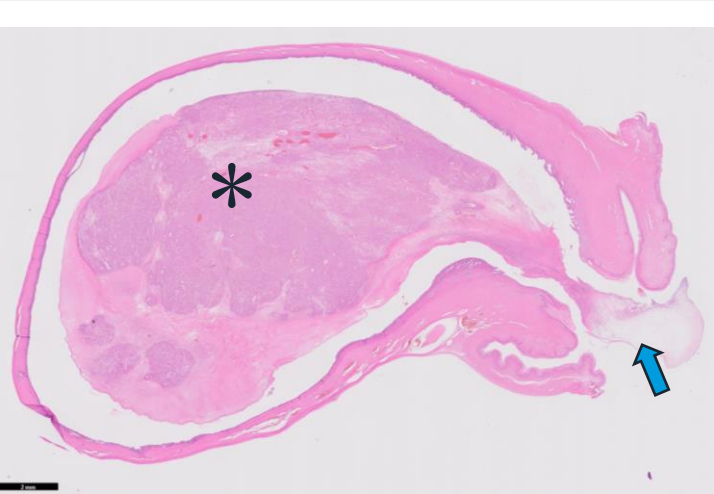


図 1. 子宮内膜間質肉腫の組織写真、ルーペ像。拡張した子宮角内にポリープ様の有茎性腫瘍(*)があり、腔断端部から一部が飛び出しています(矢印)。なお、この標本上に腫瘍基部は含まれていません。

図 2. 子宮内膜間質肉腫の組織写真、高倍像。異型性のある紡錘形腫瘍細胞が密に交錯しながら増殖しています(*)。腫瘍基部には既存の子宮内膜腺上皮が僅かに残存しています(矢印)。

ハリネズミの子宮は羊の角に似た形状が特徴です。子宮疾患が時々発生し、陰部からの出血や子宮腫大から子宮疾患の診断がなされて、外科的に摘出されます。子宮疾患の多くは子宮腫瘍で、表1は代表的な組織診断名とその概要です。

肉眼的に子宮の増殖性病変はポリープ様の有茎性腫瘍(図1)のことが比較的多いですが、子宮または腔の切除断端から腫瘍が飛び出していない限り、外観では腫瘍状の腫大や色調異常しか判断できないと思われます。

組織学的に子宮腫瘍は、子宮内膜構成成分の上皮細胞および/または間質細胞の増殖から成ります。各細胞の割合や密度、異型性から腫瘍性/非腫瘍性、良性/悪性の判断をします。ハリネズミでは、子宮内膜腺癌は稀で、子宮内膜間質成分が腫瘍化することが多いです(図2)。

子宮内膜間質腫瘍(間質結節と間質肉腫)は時に再発するので、不完全切除や漿膜面での露出、脈管侵襲がある場合は特に経過観察が必要です。

表 1. ハリネズミの子宮病変の組織診断名とその概要

組織診断名	概要
子宮内膜過形成	子宮内膜腺上皮と子宮内膜間質の非腫瘍性増殖による子宮内膜肥厚
子宮内膜ポリープ	子宮内膜腺上皮と子宮内膜間質の非腫瘍性増殖によるポリープ状腫瘍
子宮内膜混合腫瘍	子宮内膜腺上皮由来腫瘍細胞と子宮内膜間質由来腫瘍細胞による良性混合腫瘍
子宮内膜間質結節	子宮内膜間質由来腫瘍細胞による良性腫瘍
子宮内膜間質肉腫	子宮内膜間質由来腫瘍細胞による悪性腫瘍



診断医: 中嶋 朋美
DVM, PhD, DJCVP

診断医からの一言

近年の日本で人気のハリネズミですが、ネズミとは名ばかりで、げっ歯類ではないのはこの記事をご覧の皆さまはご存知でしょう。そればかりか、病理検査が必要な腫瘍性疾患の罹患率が高く、我々病理診断医も遭遇する機会が増えています。今回取り上げた子宮腫瘍も、過去の報告では「腺肉腫」や「子宮紡錘形細胞腫瘍」と別の診断名もありました。子宮に限らずハリネズミ特有の新しい診断名が今後も出てくるかもしれません。

無断での転用/転載は禁止します。

参考文献

1. Chambers JK et al., Vet Pathol. 2018; 55(4): 562-571.
2. Okada K et al., J Vet Med Sci. 2018; 80(10): 1504-1510.
3. Shiga T et al., J Exo Pet Med. 2021; 38: 11-17.